

## 第2回生駒市総合計画審議会第三部会

### 第2回 生駒市総合計画審議会第三部会

1 日時 平成27年7月28日（火）9：30～

2 場所 生駒市役所 4階 403・404会議室

3 出席者

（委員） 加藤委員、幸元委員、梶井委員、村上委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、小澤企画政策課長補佐、

岡村企画政策課企画係長 松尾企画政策課係員

4 欠席者 なし

5 議事内容

（1）各分野の検証

①No.213 子育て支援

【加藤部会長】 指標について、地域子育て拠点の事業はひろば事業が中心になってくるのではないかとと思いますが、実績が目標を大きく上回りました。井戸端会議もなくなり、公園デビューもなくなっていく中で、安心して遊べる広場の需要が高まって、今、改築作業をさせていただいているとのこと。さらに利用者数が増えていく可能性は高いと期待しております。

全体の進捗状況は行政がB、審議会はお1人がC、残りの方はBとなりました。ご意見、賜りたいと思っております。よろしくお願いたします。

【村上委員】 私の住んでいる地域は小さなお子さんを抱えていらっしゃる方・共稼ぎの方が多いため、自治会で会議をしようと思っても、お子さんを預ける必要が出てきたり、預けたくても周りに預けられる人がいなかったりという問題があったものですから、よりよくなったらいいなと思い進捗度Cにしました。

【加藤部会長】 そうですね。地域参加のときに、どういうふうな形で夜間に子どもを預け合いできるかという問題があるかと思えます。

行政の運営委員会の取組の中で、こどもサポートセンターが中心となり「要保護児童対策地域協議会」の研修等が行われているのですが、死亡事

例で関係した機関がどんなところが多かったかという調査が出ています。健診を行っていますから保健なのですが、医療機関が結構多いのです。やはり医療機関が自覚していただくということがきわめて大事で、研修実施ということで要請に応じて開催したり代表者会議を行ったりしているのですが、やはりこのような研修や何らかの交流をさらに広げていく必要があると思います。民生児童委員や教職員だけでなく、医療関係においても、それらの必要性を視野に入れて進めていただくということも必要ではないかと思っています。

ボランティア養成講座や助け合いの中で、お子さんの預け合い、あるいは、孤立している在宅の保護者の方に大いにご協力いただくということが可能性としてあるのではないのでしょうか。

【梶井委員】 指標1についてですが、ファミリーサポート事業の数値が目標値を下回っています。しかし、低下の理由として、学童保育延長が行き届いてきたことや、お迎えやお預かりの需要が減ってきたことが理由に挙げられています。お迎えやお預かりの需要が減少したということは、ファミリーサポート事業の努力が足りなかった等ではなく、その他の要因が改善したためこのような結果になったようですので、目標数値を下げるなどして設定を変えた方がいいのではないかと思います。

【加藤部会長】 私は、下げる必要はないと思います。なぜかという、今、村上委員がおっしゃったように、少し共稼ぎの方でも小回りがきくような形の預け合いというのが更に進めば、件数が上がるかもしれないと感じたからです。しかし、ファミリーサポートの利用にもお金が要るのですよね。

【梶井委員】 サポートをしてもらいたい人がいても、ファミリーサポートを利用されていないというか、今までと違った利用の仕方をされているのが普通かなと思います。

【事務局】 この検証後ですが、市長のマニフェストに沿った総合計画の見直しを予定しています。指標の目標年度をもう1年増やした際に、どうしても理由があって指標の数値を見直す必要があるという場合は、見直しをさせていただきます。ですので今回のファミリーサポートについても、担当課において平成27年度以降の目標数値の下方修正を検討する可能性もありま

す。

【加藤部会長】 延長保育が数値悪化要因のひとつであるかもしれませんが、逆に現在は隠れているほかの要因によって更に利用者が増える可能性もあるので、もう少し分析していただきたいです。

【梶井委員】 目標数値を減らすだけでなくですか。

【加藤部会長】 そうですね。更に活用してほしいということであれば、ほかの利用方法を促進したり、広報を更に行ったり、何らかの方法が存在する可能性があるからです。それが分かれば不要であると思います。

それでは、審議会としての評価は進捗度Bでよろしいでしょうか。

(異議なし)

## ②No. 221 幼稚園教育

【加藤部会長】 ご質問、ご意見、いかがでございましょうか。ちなみに、生駒市には現在何ヶ所の幼稚園があるのでしょうか。

【事務局】 公立が9で、私立が5つです。

【加藤部会長】 保育園は何カ所ですか。

【事務局】 保育園の数は、分園も含めて合計18です。

【加藤部会長】 結構多いですよ。園の数というのは、多いほどいいのです。園が多いということは、保護者の方が安定して働くことのできる環境が設けられているということだからです。それでも、まだ待機児は解消できませんね。

働いている保護者の方が増えているため、幼少期の子どもを預かってもらえる園のニーズが高くなります。ですので、そういった園の数は当然多くなります。しかし、生駒の特長としては、働いていない方がお子さんを幼稚園に預けられている割合も高いのではないのでしょうか。今後、こども園が2つできるのですよね。

【事務局】 認定こども園が約3年後に2つできます。

【加藤部会長】 すぐに何かを造るということではなくて、幼稚園は幼稚園、保育園は保育園という形で役割を分担してやっていくという方針であるということですか。

【事務局】 はい。来年度から実施しますのはこども園です。

【加藤部会長】 今、保育園や幼稚園に通っていた子どもが小学校1年生になったときに、学級が崩れたりするという「小1プロブレム」という問題があるのですが、園と小学校との行き来や交流、それから「行政の4年間の取組」1③にあるような中学校や小学校の交流が重要で、子どもたち自身の間で色々な意見交換や交流がなされていると、いじめなどの問題も起こりにくいのです。生駒市の中でもこのような形で交流が行われており、これはきわめて大切であると思います。教職員間の交流の機会だけでなく、子どもたち同士の交流の機会がより一層設けられるといいですね。

東北のあるまちで調査を行いました。高校生や小学生たちの間でちゃんと交流が行われていました。交流の場を市役所の中でも設けていたり、お祭りをしたりしているそうです。そのように、日ごろから人の目が子どもに注がれていたら、何かおかしいなと感じることがあっても、発見できる可能性がより高まると思います。

当分野では、「こども園に移行したら、どう変化するのか。該当者に考慮してほしい」というご意見がございました。

【村上委員】 私の意見です。「どうなるんだろう、かえって遠くなるのかな」という声や、「今通っていたところをやめて私立に行こうかな」というような声を耳にしました。また、負担についても心配されているようでした。

【加藤部会長】 もし担当課による説明がなされていないのであれば、一度そのような説明場を設けて頂けると、保護者の方も安心されますよね。

【事務局】 今の公立の幼稚園と民間の保育園を一緒にして、双方の中間距離ほどの位置に建設するということです。例えば0歳児・1歳児のお子さんであれば、入っていただいた後にこども園に移行することになりますので、そういったことも含めて説明をさせていただいているかと思います。

【加藤部会長】 まだ子どもが入園していない人で、入園させようかどうか検討したときに「遠くなるからやめておこう」というケースもあるのではないのでしょうか。

【事務局】 建設場所は、今の高山の幼稚園と北大和の保育園の間にある生駒来た小学校の敷地です。幼稚園・保育園間の距離は五百メートルから六百メートルほどであると思います。ですので、距離が劇的に変わるわけではない

と思われます。しかし、こども園自体が「どうなるのかな」という不安や、現在幼稚園に子どもを預けている保護者の方は、「保育園みたいになってしまうのではないか」といった不安をお持ちでしょう。

【幸元委員】 保育園と幼稚園という、管轄が違うところが一緒になってやっていこうということなので、距離というのも確かに大切な要件の1つではありますが、中身などについて更に地域の方々に向けて発信していくということが少し弱いのではないかと感じました。

【加藤部会長】 なかなか分かりにくいですね。では、審議会としての評価は進捗度Bということでしょうか。

(異議なし)

### ③No. 243 スポーツ・レクリエーション

【加藤部会長】 お年寄りと子どもについては取組の中で触れられていますが、障がい者スポーツの視点は何か入っているのでしょうか。障害者スポーツは別の分野になるのですか。

【事務局】 スポーツということであれば、この分野です。

平成27年度から29年度までということで、今年度からまた第4期「生駒市障がい者福祉計画」が策定されたのですが、その中の「障がい者の社会参加と就労支援」という分野の中で、スポーツや文化活動等の推進が挙げられています。具体的なアクションプラン等はまだこの中には挙げられていないのですが、スポーツ大会等、身近に身体を動かすことのできる機会の提供、障がい者専用のスポーツ用具設備の設置など、障がい者のスポーツ活動を推進していくとのことでした。

また、障がい者スポーツの取組についてスポーツ振興課に確認したところ、現状では特に市で何か取り組んでいるというものがないそうです。ちょうど本年は「スポーツ振興計画」の見直し年度になります。体育協会の方とあわせて今、総合スポーツセンターの「いこ増ッスルクラブ」の方で障がい者スポーツに関する取組を一部行っていますので、それも含めて取組を進めるような計画の見直しを考えているとのことでした。

【加藤部会長】 それでは委員の皆様、当分野について何かご質問ありますでしょうか。

【幸元委員】 「行政の4年間の主な取組」①8に「生駒市独自のニュースポーツの考案」と書かれているのですが、具体的にどのようなプランが出てきているのでしょうか。

【加藤部会長】 海外はニュースポーツが進んでいるようで、私もボールを使った「カーリー」というスポーツを体験しました。割とシンプルなスポーツがいろいろとできているようです。

【幸元委員】 現代ですと、シンプルである方がベターではないでしょうか。何か高揚感の高まる生駒のスポーツというのがあればいいかもしれませんね。

【事務局】 本市独自というか、生駒市が初というのはなかなか難しいとは思いますが、すけれども、部会長がおっしゃったような、今まで親しんでいないようなスポーツについては、①8にもある軽スポーツ体験で紹介されているそうです。

【幸元委員】 スポーツとレクリエーションを兼ねて楽しくやれるような、そのようなものが広がっていったら、スポーツが嫌いな人も参加できるかもしれませんね。

それから、指標1についてなのですが、「体育館の利用者はリピーターが多い」と書いて下さっています。しかし、この体育館の利用者数でもってこの分野がクリアできていると判断するのは少し違うのではないかと思うのです。クリアできているならば、市民の役割分担や子どもの生涯スポーツについても伸びてくるべきであると思います。なので、延べ利用者数という指標数値のとり方に、どの程度の意味があるのだろうかと感じました。

【事務局】 体育館の利用者数だけで、このスポーツ・レクリエーションの分野が達成できたかどうかというのは、当然判断するものではないでしょう。しかし、体育館施設の利用が多い方が、このスポーツ・レクリエーションの分野については向上されているという判断材料の1つだと考えています。しかし、これだけで判断することではないとは思っていますので、ご理解いただければ幸いです。

【梶井委員】 HOSの利用率は現在どうなっていますか。

【事務局】 3月にオープンしたところですので、まだ数値が出ていません。

- 【幸元委員】 アクセスが悪いと聞きました。
- 【梶井委員】 そうなのです。バスの便も増加したのかどうかも気になりました。
- 【幸元委員】 土日祝は本数が多いけれども、平日には出ていないらしいので、やはり利用しづらいという声を耳にしました。
- 【事務局】 バスについては、便数を増やしたのではなく傍示まで行く路線を延長させたのですが、利用者自体がきわめて少ないと聞いております。獅子ヶ丘周辺の地域の方が若干利用されるようですね。
- 【加藤部会長】 まだオープンして間もないので、HOSについては今後取組んでいただきたいと思います。では、審議会の評価は進捗度Bでよろしいでしょうか。
- (異議なし)

#### ④NO.411 地域福祉活動

- 【加藤部会長】 審議会委員の方から「対市民の意識をより高めるようにしたい」というご意見をいただいています。評価は行政・審議会ともに進捗度Bとなっております。ご意見、よろしくお願いいたします。
- 私の勤めている大学で、市民が認知症の方に気づいたときにどうするかという講座を広げています。非常に短い講座ですが、認知症の方に対して「このような言葉をかけましょう」や「このようなことに気をつけましょう」など、徘徊する高齢者の方に対する市民の理解を促すものです。この講座は高齢者福祉の分野になるのかもしれませんが、地域福祉としては「日ごろからみんなで見守っていく」という、「行政の4年間の主な取組」①6「見守りネットワーク」に該当するかもしれませんね。
- 【事務局】 高齢者保健福祉の分野では、「認知症サポーター」の養成を目指しています。
- どちらかというところ、この地域福祉活動という分野は市民の方が主体となって取組んで行く活動で、それを市としてサポートするというものです。
- 【加藤部会長】 民生児童委員の活動等も、関係し合うということなのですね。
- 【幸元委員】 「民生児童委員」という名前のおり、児童関連の分野も兼ねつつ、高齢者関連に多く取り組んでいます。サロンの立ち上げであったり、認知症のサポーター養成講座であったり、徘徊に向けての取組等も地域と連携し

て取り組んでいます。

住民自治という自治条例ができて3年も経っていますが、市民の意識はまだ弱いかもしれません。ボランティア事業も多く実施して下さったり、サロンにも協力員の方がたくさん来ていただいています。しかし、検証シートに記載された「市民1人でできること」の項目を見ますと、「全く取り組んでいない」という回答もありますので、まだまだ地域力が弱いと思います。本来は地域が主体的に取り組むべきなのですが、「対市民の意識をより高めるようにしたい」と進捗度記入表でご意見を述べていただきましたように、行政に少しだけ主導していただけたら、市民も取り組みやすくなるかもしれません。それをきっかけとしてスタートし、地域が主体的に取り組んでいけるようになれば、民生児童委員としてもありがたいと思っています。しかし、なかなか困難な面もありますよね。

**【加藤部会長】** 自治会等に加入している方は、活発に活動されているかもしれませんね。昔は当たり前前に自治会へ加入し、お互いに助け合っていました。しかし未加入者が最近増加しており、特に、マンションに住んでいる方は未加入の場合が多いそうです。また、一軒家に住んでいても、自治会に加入しないケースが見受けられるようです。そういった背景もあり、地域住民が主体的に活動を行うことが難しくなっています。

**【幸元委員】** 地域にお住まいの皆さんに知っていただきたいことについてチラシを作って、民生委員で全戸配布する機会がありました。そのときに、自治会で予めお聞きした戸数と実際の配布枚数に大きな差がありました。自治会未加入世帯が非常に多く、実際の戸数とは異なっていたようです。地域での見守り合いや、地域での支え合いなど、地域福祉を実現させるのは現状では少々厳しいだろうと実感しました。

**【事務局】** 自治会の加入率は、およそ80%以上です。生駒市の類似都市と比較しますと、80%以上という数値は高いものに分類されます。しかし、最近の傾向としては、初めから自治会に加入しないというよりも、役員をやりたくないで自治会を抜けるといったケースがあるようです。

**【幸元委員】** 災害時の要援護者避難の支援事業にも関連しますが、「助けが必要になったとき、どなたに助けていただけますか」と聞くと、近所付き合いがな



いので心当たりがないと回答をいただくことがあります。また、支援員を選任することが難しいという現実もあります。これは昔で言う「向こう3軒両隣」という地域のつながりが薄れているのではないかと思います。自治会の会長を選出する方法もローテーションやくじ引きだという話も聞きますので、地域力が不足しては地域福祉の実現は厳しいと感じます。

【梶井委員】 自治会加入を自治会から促すのではなく、市が何か啓発を行うような取組はないのでしょうか。

【事務局】 転入される際に加入する一番のきっかけとなりますので、転入者の方が生駒に転入される際に紹介を行っています。加入の願いはできるのですが、任意団体ですので強制することはできないのです。

【梶井委員】 しかし、ごみステーションがなければごみも捨てられませんし、その点にだけ着目しても、やはり自治会なしの生活は大変難しいのではないのでしょうか。

【加藤部会長】 自治会に加入せず掃除当番などの自治会の仕事をしていないにも関わらず、自治会のごみステーションにごみを捨てる人もいますか。

【梶井委員】 います。そのような人たちがごみを捨てているごみステーションや設置されているごみのネットも、自治会のものです。自分にとって都合のいい部分だけ利用しているというのは、自己中心的であると思います。

【加藤部会長】 そうですね。「自治会とは一体何なのか」、「自治会に入る意味とは」、「入るとどのようなメリットがあるのか」など、もう少し明確にしなければならぬと感じます。

【梶井委員】 「自治会に未加入だとごみが捨てられません」くらい強めの方向に持っていてもいいと思います。

役員の選出にしても、様々な事情から役員になるのが難しい人には、きっと無理に押しつけたりしないのではないのでしょうか。

【加藤部会長】 自治会に加入していた人が高齢になって、ごみ捨てが大変になったときに地域の方がお手伝いしてくださったり、重いものを持っていたら持ってくださったり、自治会活動を通して地域住民が親しくなって、結果的に助け合いへと繋がっていく。これが自治会本来の姿なのですからね。

【梶井委員】 回覧板を回すときにお互い顔を合わせる、というのは大事なことである

と思います。

【加藤部会長】 顔を合わせることによって様々な情報が入ってくるメリットがあるのですが、今はネットでほとんどの情報が手に入ってしまう時代です。ネット社会の中で、自分の住む地域をどのように豊かにしていくか、どのように地域福祉を実現させるかという新しい挑戦が必要となるでしょう。自治会、あるいはその地域自体が「土台」であるならば、地域の福祉事業はその上に成り立つものです。しかし、現状ではなかなか難しい部分もあります。

団塊の世代の中に、退職を期に「地域の中で何かやりたい」と思っておられる方がいらっしゃるのなら、更に地域福祉を活性化していくチャンスです。ボランティア登録数はあまり多くないにしても、サロンは少しずつ増えていますので、その中で何らかの地域活動を試行していただければと思います。

それでは、審議会としての評価は進捗度Bでよろしいでしょうか。

(異議なし)

#### ⑤No. 421 健康づくり

【加藤部会長】 行政は進捗度B、審議会各委員も進捗度Bです。何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

【梶井委員】 指標3「週3回以上朝食欠食している人の割合」について、指標の把握方法は特定健康検査受診者への問診項目ということですが、その把握方法ですと、対象者の年齢幅がきわめて狭くなってしまうのではないですか。

【事務局】 40歳から74歳の国保加入者に訊いているようです。アンケート調査を実施していないということですので、把握自体が難しくなっているのではないかと思います。

【梶井委員】 40歳から74歳の国保加入者という条件ですと、働いている方は国保ではなく、60歳くらいまで社会保険に加入している方が多いと思われれます。特に、男性はそのような傾向が強いのではないのでしょうか。実質的に、40歳以降の女性、約60歳以降の男性が調査対象の大部分を占めているのかもしれませんが。

【幸元委員】 調査対象に若年層を含めた場合、更に欠食率が高まる気がします。

【梶井委員】 調査対象の年齢幅が広がると欠食率が上がるのであれば、この指標が実態に即しているかという若干信憑性に欠けるのではないのでしょうか。

【事務局】 数年に1回程度はアンケートを実施してはいるのですが、この指標の数値を出すためにだけアンケート行うというのはなかなか難しい状況のため、やむをえず他の方法で数値を把握して代用したりしています。

【加藤部会長】 年齢幅が変わると欠食者割合が変化しうる件もあり、この指標については、少し検討をして頂きたいと思います。

他にご意見ございませんようでしたら、審議会としては進捗度Bという評価にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

#### ⑥No. 431 医療

【加藤部会長】 「進捗度の理由」部分について、「指標の目標値達成を『市立病院開院前のため、他の要因によるものと判断する』とありますが、他の要因について教えてください」という質問票を幸元委員から頂き、担当課よりご回答頂きました。

【事務局】 市内の医療機関が救急体制を強化させたことが要因であり、市立病院が開院が開院すれば、更に目標値を上回るであろうという回答です。

【加藤部会長】 審議会委員の評価は進捗度Cが多数でした。地域への貢献についてまだまだ色々な課題が存在していることを踏まえ、審議会進捗度はCとしてよろしいですか。

(異議なし)

#### ⑦No. 441 高齢者保健福祉

【加藤部会長】 様々な生活状況の中でのサービスが「高齢者が増えていく中で、どれぐらい公平に行き渡りますか」というご指摘を村上委員より頂いていますが、ご意見等ございましたらどうぞお願いいたします。

【村上委員】 本当に必要なとされている方に、必要としているものが行き届いているのか、ということを感じ、質問させて頂きました。例えば、何らかの手続を行うときに、手続き方法が分かっている方、分かっていない方がいらっしゃると思います。対応の仕方とかも踏まえて、サポートが本当に必要な方に行き渡るとよいのと思います。

他市から生駒市へと転入してきて、生駒市の方がよりよいと感じる部分もあります。ですが、訪問事業はどうしても最終的に「人と人」になってしまい、家族から見た評価・行政から見た評価が異なってしまうことが多いのです。高齢者を抱えていて感じることは、せつかく実態把握のために訪問して頂いても、家に来てくださる方はお客様だと感じてしまうせいか、普段は自分でやるのが難しい物事も「できます」と見栄を張ってしまうのです。けれども、行政側の方が帰られると、実はすることが困難だということもあるかと思えます。

【梶井委員】 常時とは違うということですね。

【村上委員】 ありのままを見て頂いていない場合があるので、必要であるものが撤去されてしまったり、後でケアマネージャーが器具の販売にだけ来られたりと、「そうじゃない、違う」と思ったことがありました。高レベルだと言われている生駒市なら、かゆいところに手が届くような生駒市としての特徴があれば更にいいのと思ったのです。

【加藤部会長】 生駒市ではどのように取り組んでいるのでしょうか。

【事務局】 ケアマネージャーを対象とした研修等も実施しておりますし、介護保険の認定の基準についても人それぞれ違うということ踏まえて必ずレベルが合わせられるように取り組んでいます。更に、先ほど村上委員がおっしゃったような、できないことをできると訪問者に回答してしまう高齢者の方も非常に多く、また、逆に少しでも認定を上にならそうとしてできることをできないと回答するケースもありますので、これらを考慮した上で認定調査等を行っています。認定の際、その方ができると・できないことをかかりつけの医師から伺い、医学的な見地もあわせて審査会等に諮っています。このような取組を行い、公平性を保つようにできるだけ努めています。

【加藤部会長】 ケアマネージャーに対するスーパーバイザーのような人はいらっしゃるのでしょうか。

【事務局】 ケアマネージャーは各事業所に所属しているので、スーパーバイザーに相当する方がいるかと思われます。介護認定度に応じた形で、住宅の改修などの様々なサービスの提供をケアマネージャーを通して受けることができるのですが、そのときに「不用なものを利用したり購入したりするように言われる」というクレームを時折聞くことがあります。そのようなクレームが多いケアマネージャーについては、事業所も対応しているでしょう。ただし、何が本当に本人にとって必要なのか、何が不要なのか、また、周りの方が要不要を決めているだけなのか判断するのは難しいかと思われます。

【加藤部会長】 様々な取組が密になされてきているなと思います。

【幸元委員】 「サービスを提供してもらって受けましょう」というよりは、「サービスを受けなくてもいいような、頑強で、健康な体を維持しましょう」ということで様々な取組を行っていただいています。個人差があると感じています。何でもサービスを受けたいと言う人もいれば、サービスを受けず健康維持に努める人もいたり、少し判断しにくい部分であると思います。

緊急通報システムについて、今までは行政が行っていましたが、AL SOKへの委託になっています。26年度は利用者数109人ということですが、民間委託となったことによる問題や課題は何かあります。委託に際し、費用はこれまでと変わらず生駒市で補助等していただけなのでしょうか。

【事務局】 費用はこれまでと基本、変わりません。レンタルなので、決められた年間費用をお支払いいただいています。

【幸元委員】 位置情報の利用者が6人というのは少ないですね。これから更に認知症の方も増加していくでしょうし、更なる啓発・周知に力を入れていただきたいと思います。

【事務局】 機器を首から提げるようにしてほしいとお願いしても家に置いてしまうことが多いそうです。しかし、行政として様々な種類のサー

ビスのメニューを揃えておいて、その中で最もその方に合ったサービスを  
選べるようにしています。

徘徊は癖に近いものがあるそうなので、外出するときは必ず首から機  
器をさげることが習慣づけるよう促してもいいのかもしれない。

【幸元委員】 名前や住所が記入されたカードのようなものがありますが、それも更  
に周知されれば行政も助かるし、地域も見守りしやすくなると思います。  
端末についても周知していただきたいです。

【梶井委員】 徘徊高齢者の模擬訓練は大変すばらしい取組だと感じました。実際に  
徘徊している高齢者を見かけたとき、声かけの方法や接し方など、どう  
していいかわからないと思います。実施回数2回で参加人数59人となっ  
ているのですが、自治会に出張していただいて地域の方に受講して頂き  
たいです。

【加藤部会長】 学生などの若者の参加も必要ですね。住民対象でこのような取組み  
を更に進めて行けばよいのではないのでしょうか。

【幸元委員】 進捗度の理由にも書いていただいているとおり、さらなる市民への周  
知、啓発に力を入れて頂いて、現状での取組もよいと思ったので評価と  
しては進捗度Bです。

【加藤部会長】 進捗度Bであるというご意見が多いので、Bでよろしいでしょうか。

(異議なし)

#### ⑧No. 442 社会保障

【加藤部会長】 成人と見なす年齢が18歳に下がったら、年金はどうなっていくのでし  
ょうか。選挙権は18歳ですが、年金はまだ20歳からですよ。その年  
齢ですとまだ学生の子どもたちもいるし、現実的には、大学を卒業する2  
2歳までは親が年金を立て替えて支払う等しているケースが多いと思わ  
れます。

【事務局】 もしくは、学生納付特例制度の利用が考えられます。

【梶井委員】 まだ働いていないのに、学生が年金を支払うのは無理ですし、大変なこ  
とです。

【加藤部会長】 おっしゃるとおりです。では、特にご意見等ございませんようですので、

審議会進捗度はBでよろしいでしょうか。

(異議なし)

⑨No. 451 障がい者保健福祉

【加藤部会長】 Aで満足してはいけないという理由で、私は進捗度Bであると判断しました。バリアフリーの問題を数多く抱えている部分や、あるいは、障害を持つ子どもが成長して障がい者になっていくときのつなぎの事業の部分です。つなぎの事業を行うにあたり、関係課の連携はきわめて大事なこととなります。手当の支給決定だけでなく、生活支援や、他の医療機関と連携した十分なサポート、特に精神障がいを持つ子どもの保護者の場合は精神科医療との連携も重要となってきます。なので、障がい福祉課の相談体制の中に関係機関と連携した支援体制を取っているということですが、子育ての中にもちゃんと入れておいてほしいという希望もあります。

【梶井委員】 障がいをお持ちの方ご本人はどう感じているのかが分かるような資料があれば、更に進捗度を判断しやすくなると思います。周りがこれでいいと思っても、障がいをお持ちの方は当事者としてとても住みにくいと感じていらっしゃる可能性もあります。

【加藤部会長】 障がい者福祉計画の策定にあたっては、当事者の方にも加わっていただいているのでしょうか。

【事務局】 障がい当事者アンケートを行い策定しています。

【梶井委員】 障がいをお持ちの方ご本人の視点に立ったとき、本当に進捗度Aとしてよいかどうか分かりません。

【加藤部会長】 そうですね。市庁舎だけを見ても、まだまだ段差だらけです。だから、本当の意味でのバリアフリー化、つまり、福祉的な整備があまり進んでいないように思います。

【梶井委員】 障がいをお持ちの方が訪れやすい市役所かという点、そうではありませんよね。

【幸元委員】 障がいを持たれた方の立場に立った評価が見えてきません。

【加藤部会長】 生駒には、障がいをお持ちの方は何人ほどいらっしゃいますか。全国統計では約300万人なのですよね。

【事務局】 市内の数ですけど、身体障がいの方が3,705人、知的障がいの方が621人、精神障がいの方が491人、合計4,817です。総人口に対して3.97%の割合となっています。

【加藤部会長】 障がい児だけの数値は出ていないのですね。高齢になってから歩けなくなったり、杖ついたり、手帳は持っていないなくても不自由だと感じていらっしゃるケースも多いかと思われます。そうすると、潜在的な人数というのはかなり多くなってくるのではないのでしょうか。バリアフリーが非常に重要な問題となってきます。進捗度Aということに満足するのではなく、当事者の方たちがどう考えているのかを加味した上でニーズを発掘したり目標を掲げることが必要ではないのでしょうか。

審議会前は皆さま進捗度Aとしていましたが、いかがでしょうか。

【梶井委員】 Bに変えたいと思います。市はよくやってくれている、満足していると当事者の方が判断しているかどうか不明です。

【村上委員】 これでいいのか、このままでいいのかと感じます。現状でAとしてしまうのはおかしいと思いますし、伸びしろが残されているのではないのでしょうか。

【加藤部会長】 おっしゃるように、まだ伸びしろが残されているでしょうね。幸元委員は、ご意見いかがでしょうか。

【幸元委員】 皆様のご意見をお聞きし、Bが妥当であると思いました。

【加藤部会長】 ニーズも増加したり多様化したりしてくるでしょうし、伸びしろを期待して進捗度Bとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

【加藤部会長】 指標については、目標を上回ってクリアされていると思いますし、啓発もされていると感じています。

【幸元委員】 どんなに制度が充実したとしても、制度と制度の狭間で苦しまれる方も出てこられるだろうし、現在の検証シートでは当事者の声というのが届かないですし、判断しにくく感じます。

【加藤部会長】 制度や取組に対し、障がいをお持ちの方本人の実感度や意見に基づく評価も検証シートに記入していただければ、検証時の参考になると思います。来年に向けて少し考えていただきたいです。



子どもが障がいを持っており、育てることに疲れてしまったり、子どもや自分の将来について悩んだ末に、心中してしまう事件が近年起っています。生駒市でそのような事件が防げているのは、日ごろの目配りがしっかりと行われているからだと思います。それから、バリアフリーをさらに推進していただければ、障がい者や障がい児が生きやすいまちづくりができるのではないのでしょうか。

それでは、これで第2回第三部会を終了します。

—— 了 ——